

学級活動指導案

平成 30 年 11 月 30 日（金） 5 校時（13:50～14:35） 5 年 2 組教室 指導者 井上 詔司

1 題材名 「安全な学校生活を送るためにはどうしたらよいか考えよう」

内容（2） 日常の生活や学習への適応及び健康安全 カ 心身ともに健康で安全な生活態度の形成

2 題材観

本単元は、小学校学習指導要領学級活動の内容「（2）日常の生活や学習への適応及び健康安全 カ 心身ともに健康で安全な生活態度の形成」に関わるものである。

学校では、その生涯にわたり、安全を確保することのできる基礎的な素養を育成していくことが求められている。『平成 22 年 3 月文部科学省発行の学校安全参考資料「生きる力」をはぐくむ学校での安全教育』の中で、「小学校においては、日常生活を安全に保つために必要な事柄の理解や進んできまりを守り、安全に行動できる能力や態度を養う」こと、また、「安全な行動に関するきまり、生活の中に潜む危険の予測や、それに基づく安全な行動の仕方についての基本的な理解」が求められている。

児童が日常生活の中でけがをすることは少なくないが、その大半は周囲を見ていなかったり、夢中になって歩いたりなど危険を予測できていないことが原因であることが多い。したがって、児童が自分の命を守り、安全な生活を送るために、日常生活の中に潜む様々な危険を予測し、的確な判断の下に安全な行動を取る能力を身に付けさせることが大切である。そこで、日常生活における危険な状況や場面について、みんなでイメージを共有し、判断する機会が大切であると考え、本題材を設定した。

3 研修との関わり

本研修では、サンデンホールディングス株式会社の国内グループ会社であるサンデン・リテールシステム株式会社生産本部、品質本部、開発本部、また、サンデンファシリティ株式会社ECOS事業部に配属され、各種業務に従事した。会社の目的は、利益本意ではなく、技術開発を通して、お客様に満足いただく製品を提供し、社会に貢献することで、働く者を含めて皆が幸せになることである。一人一人が安心安全に働けることが、品質のよさや社会貢献につながるという考え方である。

生産本部では、製造ラインに入り、製造業務や検査梱包業務、安全教育などに携わった。特に安全教育には力を入れており、毎週KYT（危険予知トレーニング）やヒヤリハット事例の確認などを行っている。また、安全巡視や5S（整理・整頓・清掃・清潔・しつけ）なども実施し、安全に活動するための環境づくりに力を入れている。学校においても、避難訓練や学校のきまりを守る児童会を中心とした活動など、安全に生活するための取組を行っているが、一人一人が安全を心掛けて行動することや安全な環境を作る意識を更に高めていかなければならない。

そこで、学級や学校において児童一人一人が安全に生活するためにはどうしたらよいか考え、危険を予知する力を持ち、自らの行動を顧みて改善していくことが必要である。安全を心掛け生活することは、自分だけではなく周囲の人も幸せにし、充実した小学校生活につながると考える。

4 指導方針

- （1） 日常生活の中に潜む危険に気付くために、事前にアンケートを実施し、本時の活動への意欲を高める。
- （2） 学校内でけがをしないためにはどうしたらよいか考える場面では、具体的にイメージできるようなKYT活動を取り入れる。
- （3） 日々危険なことと隣り合わせであることを認識し、安全を心掛けて行動することや、安全な環境を作ることができるように、定期的に朝や帰りの会等でKYT活動の時間を確保する。

5 評価規準（事前の活動→本時の活動→事後の活動）

評価規準	集団活動や生活への 関心・意欲・態度	校内に潜んでいる危険に関心を持ち、どのような行動を取るべきか積極的に話し合っている。	
	集団の一員としての 思考・判断・実践	学校生活の場面を見て、どのような危険が潜んでいるか課題を見付け、事故防止のために自分たちが取るべき行動を考えたり、今後の自己の行動をどうすべきか行動目標を立てたりしている。	
	集団活動や生活につ いての知識・理解	充実した学校生活を送るためには、けがをしないために危険予知をし、安全に行動することの大切さを理解している。	
時間	伸ばしたい資質・能力		主な学習活動
	知識・理解	思考・判断・実践	
事前の活動	・交通事故や身の回りの危険が原因となって起こるけがの防止、手当について、課題の解決に役立つ基礎的な事柄を理解している。	・けがの防止について、学習したことを自分の生活と比べたり、関係を見付けたりしている。	体育 保健「けがの防止」
本時の活動	・けがをしないためには、危険を予知し、安全に行動することが大切であることを理解している。	・安全な学校生活を送るためには、自分たちがどのような行動を取ればよいか考え、判断している。	・めあてを確認する。 ・身近に潜んでいる危険を見付ける。 ・自分たちが取るべき行動を考え、話し合う。 ・振り返りを行い、これからの自己の行動を考える。
事後の活動	・様々な場面の危険予知をすることで、身の回りにある危険に気付き、安全に行動することの大切さを理解している。	・危険に気付き、安全に学校生活を送れるように、行動目標を実践している。	・朝や帰りの会等でKYT活動を実施する。

6 本時の学習指導

- (1) **目 標** 学校生活に潜む危険を予知し、自分たちが取るべき行動を考える活動を通して、安全な生活を送るためにはどうしたらよいか考えたり、判断したりすることができる。
- (2) **準 備** 【教員】タブレット（企業の写真、アンケート結果）、テレビ、拡大イラスト、マーカー（赤・青）、ワークシート（個人）、実物投影機、ホワイトボードマーカー（黒）、ホワイトボード
【児童】筆記用具
- (3) **展 開**

学習活動 予想される児童の反応	時間	指導上の留意点及び支援・評価 (◎努力を要する生徒への支援 ◇評価) (太字はキャリア教育との関わり)
<導入> 1 指導者の現在までの企業での過ごし方や様子を知る。	4分	・指導者の現状を理解できるように、どのような仕事をしているのか、写真を提示しながら説明する。その際にサンデンで行われている安全を守る活動（ヒヤリハット活動・安全巡視・5S）について簡単に触れる。

2 本時のめあてを確認する。	1分	
安全な学校生活を送るためには、どのような行動を取ればよいかみんなで考えよう。		
3 校内の安全について自分自身のことや学校の現状について事前アンケートを基に振り返り、どの場面について考えるか知る。	4分	<ul style="list-style-type: none"> ・一つの重大事故の背景には、29の軽傷を伴う事故があり、その下には300もの「ヒヤリハット」した経験があるというハインリッヒの法則について説明する。 ・学校のきまりに対する児童の認識や校内の危険な場所について事前に実施したアンケートの結果を伝える。 ・事前アンケートで児童が危険だと感じていることをイメージできるような場面絵を提示する（階段の安全）。
<p>〈展開〉</p> <p>4 階段の安全についてどのような危険が潜んでいるか個人で考え、ワークシートに○印を付け、ペアで交流する（ワークシート1）。</p> <p>— 予想される生徒の反応 —</p> <ul style="list-style-type: none"> ・階段の少し上からジャンプをすると下にいる人とぶつかってしまいそう。 ・広がって下りていると下から上がってくる人とぶつかってしまうよ。 ・階段で友だちと押し合っていると、バランスを崩して落ちてけがしそう。 <p>5 階段の安全について、どのような危険が潜んでいるか全体で発表する。</p> <p>6 班になり全校の児童に最も気を付けてほしいこと一つに絞り、けがをしないためにはどのような行動を取ればよいか考え、発表する（ワークシート2）。</p> <p>— 予想される生徒の反応 —</p> <ul style="list-style-type: none"> ・階段を下りるときは、走らずに一段一段ゆっくりおりる。 ・広がって歩かず、階段の右側を歩く。 ・階段を歩くときは、友だちと手をつないだり、肩を組んだりしないで、ゆっくり歩く。 	<p>5分</p> <p>5分</p> <p>18分</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・危険箇所○印を付けながら、どのような危険が予想できるか考えるように伝える。 ・考えることが苦手な児童も意見が出しやすいように、事前にどのような意見も否定しないことを伝え、交流させる。 (人間関係形成能力・社会形成能力) ・他の人の意見を聞いて気付いたことを発表してもよいことを伝える。 ・次の班活動で話し合いがスムーズに行えるように、出た意見に番号を付けるよう指示する。 ・児童が出した意見は全て危険を含むものであるが、全校の児童に気を付けてほしいことを一つ選ぶことを確認する。 ・自己の経験や学校の実態を踏まえて考えるために「なぜその状況を選んだのか」という理由を考えるように伝える。 ・けがをしないための行動は、「○○しないで○○する」というように例示を示し、自分たちが取るべき行動を記述することを伝える。 ・階段での安全について全校の児童に最も気を付けてほしい状況を班で話し合いながら選び、自分たちが取るべき行動をまとめさせる。 (人間関係形成能力・社会形成能力)

